

環境ビジネスウイメン 森裕子のコラム

次世代を担う現場力のある

環境人財の育成が急務

～汗をかく = 身体の汗、智の汗、心の汗～

森裕子(株式会社ハチオウ 代表取締役)



産業廃棄物という大きな課題

環境の世紀と言われる 21 世紀。人類の生存を脅かす地球規模の環境問題と直面する私たちは、20 世紀の社会システムから 21 世紀への変換、つまり金とコンクリートの時代から人と自然を大切にする時代へパラダイムシフトの必要性に気づき始めました。

戦後の混乱期から立ち上がるために、先輩たちが国も個人も必死に戦ってきてくれました。そのおかげをもって、衣食住の足り暮らしを享受させて頂いています。しかし、享受した結果として、次世代に廃棄物と環境汚染という大きな課題を残してしまったのです。

産業廃棄物処理業者 . . . 専門業者としてその品質を高めることが使命

私たちは日常的に豊かな物質生活の恩恵を受けられる幸せな環境にいます。その豊かさの背景にあるのが膨大な量の産業廃棄物の存在です。単に公害を発生させないということだけでなく、地球環境問題という新たな視点から、これを解決してゆかならなくなりました。

現在、環境科学を教える大学や専門学校が増えています。また廃棄物について研究する大学研究室もあります。社会や若者の関心があることとして喜ばしいことです。

しかし、廃棄物の問題は法律や技術やシステムだけでは解決できません。現実の問題のなか解決に向けて日々実践していく存在が必要です。その非常に重大な責務を背負っている専門家たちが、私たち産業廃棄物処理者であると考えています。これまで 40 年近く蓄積してきた知識や技術を総動員して、環境問題にこたえられる新しいシステムを創り上げてゆく最前線部隊であると自負しています。

まさしく 20 世紀から 21 世紀へのパラダイムシフトです。

化学系廃棄物の処理

当社の廃棄物処理の特徴として、廃棄試薬や薬品等の特殊な廃棄物の処理が挙げられます。化学物質の使用量削減や環境中への排出抑制が現在の世界的な化学

物質管理の潮流ですが、現実には大手企業や中小事業者の現場から日々不要となった化学物質や廃棄物が発生しています。具体的には、実験廃液や工業廃液、薬品、各種汚染物等、個々の排出量こそ少ないが化学的リスクや環境負荷の極めて高い廃棄物の処理です。

これら化学系の廃棄物は全産業廃棄物の0.3%とされています。しかし、無処理で環境中に放出された場合、地球環境や生物への影響力は甚大であることは言うまでもありません。40年に渡ってその適正な処理に取り組んできました。これら化学物質による環境負荷やリスクを少しでも減らすために、当社では技術者が人手により多品種の廃棄物の化学的特性に応じた個別処理を施しています。少量多品種な化学系の廃棄物を扱うという事では、日本一を誇って良いと思っています。そこには一生懸命誠実にという言葉がぴったりとはまると思います。

リスクの高い仕事

しかし、廃棄物処理は非定型作業ゆえに労働災害が多く、当社においても過去を通じて大きな災害こそ発生していませんが軽微な事故は多々あります。火災や化学事故、労働災害とも背あわせといったリスクの高い仕事であることは否めません。

数ある産業廃棄物処理の分野のなかでも、恐らくは最後まで安全性や技術面のあり方が検討される分野ではないかと考えています。また、化学系廃棄物の個別処理は、大量処理を行なうこととは相反し、企業経営としては財務的にもリスクを併せ持っています。

現場力のある人財の育成

この仕事には危険度が高く、利益も取りにくい現実がありますが、従事する社員が誇りをもって取り組める社会システムが無ければ、この仕事は成り立ちません。言葉を替えれば、喜んでこの仕事をし、彼らの生活の保障が成り立ち、危険が守られること。そうした体制が無ければ人類の生存、生物多様性も成り立たないと思っています。

今、化学物質の安全性や管理のあり方については、各分野で問題視され、取り組みが始められています。このような状況のなか、これらシステム構築と並行して豊かな人間性を持った現場力のある人財の育成が急務であると考えています。

環境現場の人財育成を使命として

10年もしないうちに日本は深刻な労働力不足に直面し、国内産業の多くが外国人労働者なしには成立たなくなると言われています。とすれば、異文化との融合も考慮に入れた価値基準も求められるでしょう。

「将来のスペシャリストの育成という視点から、専門分野の基礎的知識、技術および技能を身に付けるための教育と共に、社会的責任を担う職業人として、規範意識や倫

理観を持ち、豊かな人間性の滋養にも配慮した教育が重要である」と新しい高校の学習指導要領の基本方針に謳われています。

「物より思い出、物より心を大切に感じている」といった若い世代の調査結果があるように、心の育成を基軸に自分が選んだ仕事に夢と希望と誇りを感じることができる。

このような人財育成に向けて、産官学民、そして他国との問題の共有をも踏まえたなかで、40年間少量多品種な化学系廃棄物の処理に取り組んできた経験智という財産を活かして取り組んでいくことが私たちの使命と考えています。

その第一歩としての勇気、

- ・今日一日、あなたは道路に落ちているゴミを拾いましたか。
- ・職場の近隣の清掃を手がけましたか。

総てはここから始まると思います。